

「しんどい時は、朝まで我慢しなくてよい」、安心できたことが一番

京都(ゆうゆうの里)

小林光雄様(78歳)

令和元年7月

小林美也子様(75歳)

令和2年3月

夫婦入居

今年の11月で結婚50年になります

ご主人 私の仕事の愚痴とかぼやきを言うとか、違う見方を話してくれました。そうやって助けてもらっていたのかなと思います。

奥様 「おてんとう様は見てござる」といいますが、まじめに普通に生きていたら、おてんとう様が見てくれているから、いい事もあるに違いないと樂觀的に生きてきました。主人はおおらかな人です。心配であまり眠れないことがあっても、あくる朝、主人の顔をみると「まあええわー」と思えるんです。ご主人 妻はどちらかといえば、机に向かうのが好きでしたが、私



えんどう豆が収穫の時期となりました

は外に行くのが好きでした。二人が休みの時には、私が誘って一緒によく出掛けました。

人のためにできることがある…

園芸ボランティア(ご主人)と公文教室(奥様)

ご主人 園芸ボランティアにであって10年位続けました。種を蒔いて苗を育て、育てた苗を、幼稚園、小学校、老人施設の植栽をするボランティアに寄贈します。設備の整ったハウスで、どれだけ発芽させ、苗まで育てられるか、住んでいた市内の7つの区のボランティアが競争していました。発芽率を上げるために、毎朝、毎晩一定の温度や風向きなどを管理してお世話していました。障害のある子供たちの園芸体験で、芽が出た時には、彼らが喜びを爆発させてくれました。人が喜んでいっているのを見るのは自分もうれしいし、励みになりました。

奥様 私は公文の講師を42年間やりました。子供たちと小学校から高校生になるまで長い付き合いになることも多く、その間に勉強が好きなになって、成長して行く姿を



お気に入りのテラス居室前で

した。駅の近くのマンションとか、住むころを探そうと思いました。ご主人 そんな時に、NHKの番組「ドキュメント72時間」を見たのです。そこに自立入居型の人が見たのです。そこにあるホームが、それまで老人ホームといえ、健康な高齢者が入るところではないと思っていました。「こんなところあるんや」とすっかり考えが変わりました。それから、多くの自立入居型の施設を見学しました。そして、自然環境に恵まれたテラス型に魅力を感じここに決めました。

安心できたことが一番。ストレスフリーの暮らしを実感

奥様 安心できたことが一番。ここにいたら安心です。しんどい時は、朝まで我慢しなくてもいいですよと職員さんが言ってくれました。しんどい時は夜中でも対応してくれるところが安心です。

ご主人 とにかく土を触っているのが好きです。これまで畑の経験はなかったのですが、今年で農園を借りて二年目。入居者のよく知っている人が丁寧に教えてくれます。もうちょっと、野菜を上手にできるようにしたいな。

奥様 私はよく歩くようになった。歩いていて、鶯が上手に鳴くようになったとか、木の芽や蕾の膨らみに目が行くようになった。そういう気づきができることに感激しました。

自立入居のホームを知り「こんなところあるんや」

奥様 近所のお医者さん、スパーがなくなり、住んでいたニュータウンが変わりつつあることを感じました。この先、車に乗れなくなったらどうしよう、買い物難民になってしまおうと思いま